



コミュニケーションペーパー

2022
Spring & Summer

春夏号

Vol. 6

TAKE FREE

特集

子どもの学びを支える
保育者の環境構成

講師 堅田 弘行 (保育心理学演習)

トピックス

日本ボランティア学習学会島根大会について
(大阪健康福祉短期大学学長代理) 余村 望

▶▶▶ 先輩に聞く!

大学に3年次編入し小学校教員へ (森山 優希さん)

▶ 教員紹介

大阪健康福祉短期大学 講師 (教育制度論) 川内 紀世美

▶ オープンキャンパス

編集後記

子どもの学びを支える保育者の環境構成

保育において近年注目されている視点の一つとして、アフォーダンスがあります。「与える」や「提供する」といった意味をもつ英語の「afford」という言葉から名付けられた造語で、アフォーダンスは、環境が動物に対して与える行為の可能性のことです。遊びの中で盛んに登場する「水」は「触れる」、「混ぜる」、「すくう」、「凍らせる」といった様々な行為を子ども達に与えています。子どもが環境に働きかける中で、その環境からどのような可能性を導き出すか、その可能性は保育者の予測を上回る時があります。その際、保育者は予め設定した課題を再構成することが求められます。保育者がどのように環境を再構成するのかについては、その場の瞬時の判断が要求され、それなりの経験が求められます。その一方で、それは単なる経験としてではなくそう判断するエビデンスが存在します。

2020年に島根県内の公立の保育所、幼稚園、認定こども園を対象に行った調査では、環境構成の段階で考えている保育者の「ねらい」が、環境を再構成する時に「願い」に変わり、保育者は子どもの主体的な活動と環境から学ぶ機会を保障していることが明らかになりました。環境構成を行なう段階では「ねらいが達成できるように」や「自然を感じたり、関わったりできるように」といった遊びへの展望や、子どもに経験させたい、身に付けさせたい内容といった保育者の意図を持った視点が重視されていますが、予想を超える出来事に遭遇した際には、子ども達の活動の中で保育者の意図は薄れていきます。遊びを心の底から楽しんで欲

講師

堅田 弘行

(保育心理学演習、
子どもの遊びと学びI)



特集

しいという願いの他、遊びの中や遊びを介して、何かに気づいて欲しかったり、考えて欲しかったり、感じて欲しかったりと遊びの中の学びを育む保育が環境を再構成する中で実践されています。活動の中では、子どもにとっては遊びを楽しみたいという願いがありますが、保育者には環境構成の段階で考えていたねらいを基礎として、子どもの活動の姿からねらいに基づく成長や変化を願っています。この願いを持つが故に保育者は願いを達成するために「見守る」や「声をかける」、「一緒に楽しむ」、「新たな素材を準備する」といった行動に移っていると考えられます。この時、子どもの主体的な活動と環境から学ぶ機会が保障され、子どもは学びを得る絶好のチャンスとなるのです。

子どもは常に保育者の想像の上を歩きます。前述の調査でも、「段ボールサーフボード」、「集合するためにテープで作った円い印-相撲の土俵」、「雨の中の傘-テント」といった具合に子どもは環境から様々な可能性を受け取っていました。そのため子どもの行動を予測することは困難ですが、子どもが環境からどのような情報や可能性を導き出すのかということを知ることは、子どもを理解し、環境構成を行うために必要なことと考えています。遊びの中で見られる子どもの可能性を探求することで、遊びの可能性も広がり、そして学びの可能性も広がります。

令和4年 11月26日(土)～27日(日)

第25回日本ボランティア学習学会しまね大会メインテーマ

「地域共生社会のボランティア学習

～多世代がつながる地域づくり、人づくり～」

前号でお伝えした第25回日本ボランティア学習学会しまね大会が、いよいよ半年後開催となりました。

ボランティア学習とは何か。本学会を主催する日本ボランティア学習協会は「ボランティア学習(Volunteer Learning)は、学ぶ人びとの"主体性"や"市民性"を育みながら、地域社会や地球社会をキャンパスにして学ぶ「市民学習」(Citizenship)」と定義しています。主体的であり、市民的である社会参加のための学びの場は、本来地域社会が自然発生的に備えるべきものに違いありませんが、時代によってその実態は様々です。

今日本は、少子・高齢化、人口減少といった社会課題に直面し、特に経済不安から新たな日本の担い手の養成、社会基盤構築が急務とされています。地域福祉の視点から今を見ると、これまで長い間社会を牽引する優秀な人材、つまり時代を担うリーダーの養成が主命題だった社会から、住民参加を原則として地域を

担う多様な人材の養成による、多様な機能の集合体形成が問われる時代へと変化してきたように感じます。その原則の変化の必然性は、いま直面しているロシア・ウクライナ戦争の理不尽さからも確信することができます。

ボランティアは無償の行為と理解されています。その捉え方は様々ですが、地域共生という言葉を考えてとき、独善的な利益追求や利益占有といった性格がなじまないことは明らかです。言い換えれば、無償という表現は互酬に近い行為と理解することもできます。

今大会は、5つの分科会に島根県内を中心とした様々な活動主体がその実践を発表します。いずれも多世代参加の互酬的性格を備えた活動です。神都島根の新たな時代を探る大会になることを期待しています。本大会の詳細は9月にお知らせできる予定です。オンライン参加もできる環境をつくりまします。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

大阪健康福祉短期大学松江キャンパス 学長代理 余村 望
(第25回日本ボランティア学習学会2022inしまね事務局長)



教員紹介



講師(教育制度論)

川内 紀世美



2

Q1 研究テーマと研究の目的について教えてください。

ゼミでヴァルドルフ(シュタイナー)教育を紹介しています。旧制松江高等学校でドイツ語講師フリッツ・カルシュ博士(Fritz Karsch, 1925-1939)がシュタイナーの思想を講義したことが知られています。島根大学は「日本の哲学史のうえでも重要な人物」としてカルシュ博士を今に語り継いでいます。



松江に縁のあるこの教育を学生に知ってもらい、将来の保育実践に役立ててもらえればと願っています。

キラリ
卒業生

先輩に聞く!

森山 優希さん(1期生)

(松江南高等学校卒)

この夢を実現できたのは
短大での学びがあったから

大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科1期生として卒業して早2年が経ちます。

私は卒業後、香川大学教育学部 小学校教育コースに3年次編入をしました。そして昨年度教員採用試験に合格し、春から香川県で小学校教諭になります。幼少期からの夢-小学校教諭になること。この夢を実現できたのは、短大での学びがあったからだと思います。

私は編入学を目指して短期大学に入学しました。正直、入学する前はすごくネガティブな気持ちでいました。それは大学入試に失敗し、短大へ進学することへの不本意さから感じていたものだと思います。しかし、この短大で学ぶ中で、小学校教諭になる上で、子どもに関わる1人の人間として自分がどうあるべきかという事を深く考える事ができました。

特にそのことを強く実感したのは、短期大学1年次から多くの実習をさせて頂けるのは本当に貴重な経験だと思います。私は多くの実習を通して、小学校教諭として30人以上のいる集団の子どもたちを育てていく上で目指して

いきたい教育の形を見つけました。それは、集団の中にある特別な支援を必要とする子どもを支援するとともに、困難さを感じている他者の環境を当たり前を整えたり支援したりすることのできる周りの子どもたちを育てていくということです。これが今、小学校教諭として現場に出る自分の軸となっている「インクルーシブな学級・学校づくり」です。

4月から小学校教諭として現場に出る事になります。現場に出てからも常に学び続ける姿勢で、多くの子どもたちを育てていきたいと考えます。

これから保育士・幼稚園教諭を
目指す人たちへメッセージ

これから短大に入学する皆さんの中には私のように夢が保育者ではない方もいらっしゃるかもしれません。でもこれだけは断言できます。夢は自分で掴みにいくものです。自分の熱意に共感し、力になってくださる先生方が沢山いらっしゃいます。この短大という環境の中で、どう学ぶかは本当に自分次第だと思います。自分の夢は意外なところで繋がっています。皆さんが夢を掴み取るために努力されるのを応援しています。

Q2 本学の教員として意識していることはなんですか?

学生たちは娘や息子のように歳が離れており、つつい子ども扱いしてしまいそうです。けれども2022年4月1日に成年年齢が18歳に引き下げられたこともあり、学生に対して丁寧な言葉づかいをするように心がけています。学生には立派な大人として振る舞えるように成長することを期待しています。

Q3 座右の銘やこだわりなど

「千里の道も一歩から」という言葉の通り、始めたことを着実に継続することは大切です。振り返れば実行できていないこともあり、自分自身にも言い聞かせたい言葉です。

3

どっちにする？

来校型

ライブ配信型

見て！聞いて！体験できる！

オープンキャンパス！

予約受付中

学校
について

学科
について

入試
について

奨学金
について

個別
相談他

YouTubeを使用したライブ配信でも実施します。

時間 13:00~15:30(予定) (受付12:30~12:50)

2022年 6/18 ±

10/22 ±

7/2 ± 7/16 ±

12/10 ±

8/6 ± 8/27 ±

2023年 3/18 ±

9/24 ±

受験生を対象とした
個別相談も随時受付中！

オープンキャンパスに参加を希望される場合は
事前にホームページまたはTEL.0852-67-3716から
お申し込みください。



オープン
キャンパス
会場

学校法人 みどり学園 大阪健康福祉短期大学

松江キャンパス



保育・幼児教育学科

島根県松江市西川津町4280

TEL:0852-67-3716 FAX:0852-67-3805

ホームページ <http://www.shimane.kenko-fukushi.ac.jp>

Eメール kouhou-shimane@kenko-fukushi.ac.jp



スマートフォン用

安来キャンパス



地域総合介護福祉学科

島根県安来市広瀬町広瀬753-15

TEL:0854-32-4198 FAX:0854-32-4197

ホームページ <https://www.yasugi.kenko-fukushi.ac.jp>

Eメール kouhou-shimane@kenko-fukushi.ac.jp



スマートフォン用

編集後記

今回の「キラリ卒業生」は、香川大学教育学部小学校教育
コースに3年次編入をし、今春から香川県で小学校教諭になる
夢を実現した卒業生にインタビューしました。

在学中の彼女は、空きコマや放課後など少しの時間も惜し

むように勉強に打ち込んでいる姿がとても印象的でした。

彼女の「夢は自分で掴みにいくものです。自分の熱意に共感
し、力になってくださる先生方が沢山いらっしゃいます。」と
いう言葉が、心に響いています。

(担当 宇山)

Chouz

コミュニケーションペーパー

2022
Spring & Summer
春夏号

Vol. 6

Chouz(チョウズ)第6号 2022年5月31日 発行

発行者：大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科

印刷：株式会社谷口印刷